
Review

歯科診療における労働安全衛生

細木 秀彦

Keywords : 歯科診療, 労働安全衛生, 作業環境管理, 作業管理, 健康管理

Industrial Safety and Health Management in Dental Practice

Hidehiko HOSOKI

Abstract : Industrial safety and health management in Japanese national universities was regulated by the National Personnel Authority's Rules until turn national universities into independent administrative entities in April 2004, after which the Industrial Safety and Health Act applies to national universities corporation as well as ordinary companies. Appropriate regulations were also put in place at Tokushima University subsequently and the National University Corporation Tokushima University Industrial Safety and Health Regulations were established. The first article states the following: "The purpose of the regulations is to protect the security of staff, to promote and maintain their health, and to foster a comfortable work environment."

The contents of industrial safety and health are multifaceted. First, the activities related to preventive measures against nosocomial infection, executed by the Nosocomial Infection Control Committee, were introduced. Prevention of nosocomial infections is extremely important to patients and all medical workers. Next, the Hospital Safety and Health Advisory Committee's activities in health management were described.

There are three basic components of industrial safety and health, which are the following: First, "working environment management" consists of eliminating various hazards from the working environment and maintaining a comfortable working environment. For example, working environment measurements of organic solvents and specified chemical substances used in dental laboratories and other areas are taken to prevent health hazards. Second, "occupational management" consists of managing working methods from the perspective of preventing health hazards. Third, "health management" consists of promoting and maintaining the health of workers.

Building a comfortable work environment is a requirement for providing safe medical care which promotes sense of security to its users. Health of the medical workers themselves is a condition to realizing this. Particularly in a university hospital, in which various professions are working together under different work relationships, it is also important to take appropriate steps to deal with mental health, overwork, and other issues latent in the work environment. These were not discussed in detail this time.

1. はじめに

国立大学における労働衛生管理は、人事院規則に基づいて行われていた。平成16年4月の法人化以降は、一般企業と同じように労働安全衛生法の適用の対象となった。同法は昭和47年に制定され、労働基準法と相まって労働災害の防止のための（1）危険防止基準の確立、（2）責任体制の明確化、（3）自主的活動の促進の措置など労働災害の防止に関する総合的計画的な対策を推進することにより、職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を推進することを目的としたものである。

これに伴い、徳島大学でも国立大学法人徳島大学職員安全衛生管理規則が制定された。その第1条には本規則は、「職員の安全の確保及び健康の保持増進を図るとともに快適な職場環境の形成を促進することを目的とする。」とされている。労働災害という言葉からは、工場や建設作業の現場での各種の労務災害による死傷事故を思い浮かべる方が多いはずである。実際、法律が施行された当初はそのような事例が対象ではあったが、最近では産業構造の変化に応じて様々な観点に目が向けられるようになり、多様な労働災害が対象となっている。労働安全衛生の内容は、多岐にわたり全てにおいて詳述するだけの知識を持ち合わせているわけではない。ここでは、これまでに経験した徳島大学病院での労働安全衛生活動を紹介しながら歯科診療に関連する事項について考えることとする。

2. 感染対策活動について

病院内において最初の労働安全衛生に関する活動は、感染対策担当者として行った月1回の Infection Control Team (ICT: 感染対策チーム) ラウンドと同じく担当者会議の出席などによる活動に始まる。ICTの役割は、

- (1) 院内における感染症対策及びその指導に関すること
- (2) 抗菌薬の適正使用の推進に関すること
- (3) 感染症サーベイランス施行に関すること
- (4) 職員に対する感染症の教育及び啓発に関すること
- (5) 感染症に関する院内及び院外への広報及び他の医療機関との情報提供に関すること
- (6) 感染症一般の情報管理に関すること
- (7) その他院内感染防止対策に関すること

などである。特に、ICTラウンドは病院内を巡回して院内感染が発生する芽をつむことにあり、後に衛生管理者として行う職場巡視と共通する点が多い。院内感染予防は、患者のみならず全ての医療従事者にとって大変重要である。この活動を経て取得した資格が Infection Control Doctor (ICD: 感染制御医師) である。

ICDは、ICD制度協議会によって運用されている。詳しくは協議会のホームページ (<http://www.icdjc.jp/>) を参照していただきたいが、認定を申請するためには所属学会からの推薦が必要となる。日本感染症学会を始め、歯

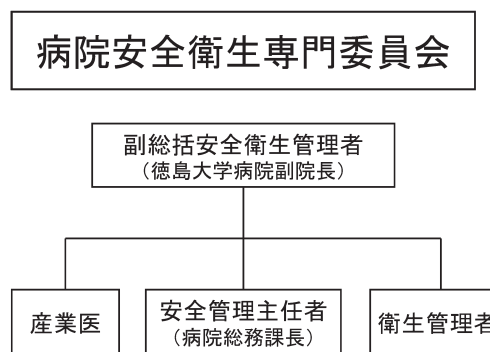


図1 徳島大学病院の労働衛生管理体制

科関係では日本口腔感染症学会、日本歯科薬物療法学会、日本有病者歯科医療学会など24の学会で構成されている。感染対策委員またはそれに準ずる活動歴が必要なのは言うまでもない。その他、ICD制度協議会の主催する講習会などへの参加が必要であるが、院内で一定期間の感染対策活動を行えば、比較的容易に取得できる資格である。

3. 衛生管理者としての活動について

感染対策活動に引き続き、携わったのは衛生管理者としての活動である。職場における労働衛生管理を円滑に行うための組織が病院安全衛生専門委員会である。本院では図1のように副院長が副総括安全衛生管理者の役を司り、その他に産業医、安全管理主任者（病院総務課長）、衛生管理者で構成されている。委員会は毎月1回開催され、院内の職場環境の改善や職員の労働安全衛生について討議する場である。

労働安全衛生規則では、「衛生管理者は、少なくとも毎週一回作業場等を巡視し、設備、作業方法又は衛生状態に有害のおそれがあるときは、直ちに、労働者の健康障害を防止するため必要な措置を講じなければならない。また、事業者は、衛生管理者に対し、衛生に関する措置をなし得る権限を与えなければならない。」このように第11条に定められている。

衛生管理者の定期巡視は、労働安全衛生活動の根幹の役割をなしている。工場や建設作業の現場などの場合は現場に立ち入るのはそこで働く人たちがほとんどである。ところが、病院などの医療機関の場合には、職場の大部分は患者さんと共有する空間であることが最大の違いである。医療の現場の主役は患者さんであり、職員はその患者さんに医療サービスを提供する側となる。自ずと患者さんの安全や健康の確保が優先される傾向にある。また、病院には様々な職種、多様な雇用関係および勤務体系の職員が存在する。

この活動を通じて取得した資格が労働衛生コンサルタント（保健衛生）である。その業務は、労働安全衛生法

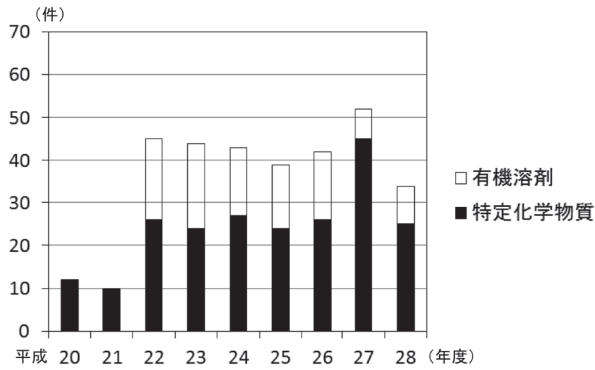


図2 作業環境法定報告書の作成件数



図3 作業環境の改善例（歯学部 解剖実習室）

	資 格	
菅田 栄一	<ul style="list-style-type: none"> ・ エックス線作業主任者 ・ ガンマ線作業主任者 ・ 第2種電気工事士 ・ 衛生工学衛生管理者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2種作業環境測定士 ・ 第1種作業環境測定士（2号・電離放射線） ・ 第1種放射線取扱主任者
細木 秀彦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働衛生コンサルタント（保健衛生） ・ 衛生工学衛生管理者 ・ 第2種作業環境測定士 	
前田 直樹	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全衛生推進者 	
吉田 みどり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定化学物質作業主任者 ・ 有機溶剤作業主任者 ・ エックス線作業主任者 ・ ガンマ線作業主任者 ・ 第1種衛生管理者 ・ 衛生工学衛生管理者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2種作業環境測定士 ・ 第1種作業環境測定士（1号・粉じん、2号・電離放射線、3号・特定化学物質、4号・金属、5号・有機溶剤） ・ 第2種放射線取扱主任者

図4 労働安全衛生に関する資格

第81条第2項に規定されているとおり、「他人の求めに応じ報酬を得て、労働者の衛生の水準の向上を図るため、事業場の衛生についての診断及びこれに基づく指導を行うこと。」となっている。正規の手続きを経れば、事務所を開設することは可能であるが、大学職員という立場では事務所を開設することは難しい。

歯科医師がこの資格を取得するためには、年1回日本歯科医師会が主催する産業医学講習会を受講し、修了証を受領すれば、一次試験（筆記試験）が免除される。その後の二次試験（口述試験）に合格すれば厚生労働大臣の合格証を得ることができる。産業医学講習会は毎年1回、9月頃に開催される。日程等、詳しくは日本歯科医師会のホームページ（<http://www.jda.or.jp/>）を参照していただきたい。例年、初夏を迎える頃に案内が更新される。

4. 労働安全衛生の3管理

どのような職場においても労働安全衛生を考えたときの基本は、以下の3管理によって構成される。

（1）作業環境管理

作業環境中の種々の有害要因を除去し、快適な作業環

境を維持するのが「作業環境管理」である。作業環境管理を進めるには、作業環境中にこれらの有害な因子がどの程度存在し、その作業環境で働く労働者がこれらの有害な因子にどの程度さらされているのかを把握する必要がある。そのためには、作業環境測定を行い、評価し、その良否を知ることが必要になる。作業環境測定を行うことのできるのが、「作業環境測定士」である。

歯科放射線学分野は、歯学部の各研究室で使用されるイソプロピルアルコール、メタノール、アセトンなどの有機溶剤やホルマリン、アクリルアミド、クロロホルムなどの特定化学物質の作業環境測定を行って、健康障害の発生の防止に貢献している。図2に最近8年間余りの報告件数の推移を示す。尚、平成28年度については9月までの半年分である。

作業環境測定の結果に基づいて改善がなされた一例を図3に示す。実習を行う台に局所排気装置が設置されている。実習室のホルムアルデヒド対策として学生の曝露防止だけではなく、長期間働く教職員の作業環境の管理という点からも意義がある。

図4に図4は、歯科放射線学分野の教員が所有している労働安全衛生に関する資格である。尚、前述のICD

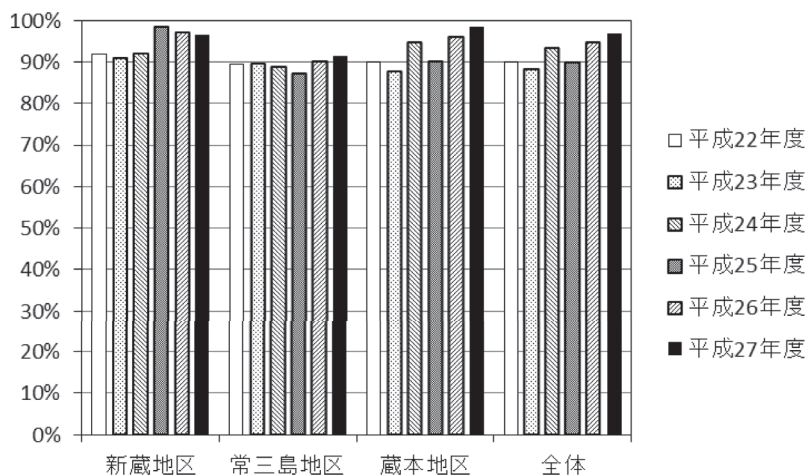


図5 健康診断受診率 (人事課 蔵本職員係より)

などの法人等の任意団体が認定している資格は除いている。本院ではこのような様々な資格を取得するためにキャリアアップ形成支援センターがある。そこで示されている取り決めとしては、「研修会・講習会あるいは技術技能習得や資格取得を目的とした研修派遣等、各職種のキャリア形成に寄与する教育企画への参加に対して、旅費（交通費、日当、宿泊費等）及び参加費を助成する。その内容・規模等は、全国レベルであることが望ましい。」また、「資格認定試験検定料・受験料及び旅費、昼食代、懇親会費、学会年会費等は、助成対象外とする。」とされている。歯科医師の資格があれば、受講や受験資格の点でアドバンテージが存在するものがあることを記しておきたい。

(2) 作業管理

健康障害の予防という観点から作業の方法を管理するのが「作業管理」である。すなわち、作業方法を観察、分析して問題点を見出し、健康障害を未然に防止することおよび作業者がその作業能力を充分発揮できるような環境を整えることが目的である。

その一例として最も身近にある作業は Visual Display Terminals (VDT) 作業がある。日常の勤務でモニターを使ったコンピュータ作業を行わない日はないはずである。その作業内容と作業時間によっては、VDT 作業の報告書の提出を求められる。

(3) 健康管理

健康の保持および増進を図るのが「健康管理」である。そのためには、労働者の健康を継続的に観察し、健康に障害のある者を早期に発見して治療させ、速やかな社会復帰を図ること、ならびに健康を障害する要因の発見と除去、衛生管理の改善と向上を図らなければならない。

労働安全衛生法関係の健康診断は、

- 1) 一般健康診断
 - ・雇入れ時の健康診断
 - ・定期健康診断
 - ・特定業務従事者の健康診断
 - ・海外派遣労働者の健康診断
 - ・結核健康診断
 - ・給食従業員の検便
- 2) 歯科医師による健康診断
- 3) 臨時の健康診断
- 4) 特別の項目についての健康診断

に分類される。我々に最もなじみのあるのは、年1回の定期健康診断である。図5は、直近の6年間の徳島大学職員の受診率の推移を示している。蔵本地区は、その多くが医療施設あるいはそれに非常に密接な関係の職員が多いことから皆受診であることが望まれる。一方、図6は厚生労働省が報告している国内における健康診断時の有所見率の推移である。対象項目は、聴力、胸部X線、血圧、肝機能などであるが平成20年を境にして半数を超える人に何かの項目で異常所見が確認されている。

また、日常的に放射線業務に携わるような医療従事者の場合は、放射線の被曝歴の有無を含めて6月以内ごとに行い、その結果に基づいて適切な実施後の措置を行うように定められているのが、特定業務従事者の健康診断である。

これらとは反対に歯科医師が行う健康診断としては、唯一労働安全衛生規則48条に定められている塩酸、硝酸、硫酸、亜硫酸などの歯又はその支持組織に有害な物質のガス、蒸気又は粉じんを発散する場所における業務を行う作業者に対して行う健康診断である。それらの場合に見られる歯の化学的損傷としての歯牙酸蝕症がある(図7)。

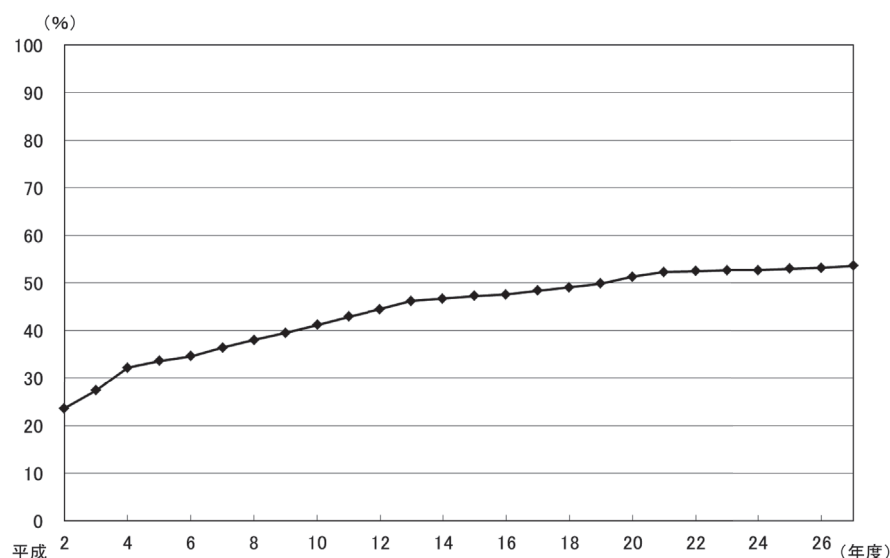


図6 定期健康診断による有所見率（厚生労働省の資料）



図7 歯牙酸蝕症 E3（中等度、実質欠損が象牙質に達す）（宮崎市 矢崎 武先生提供）

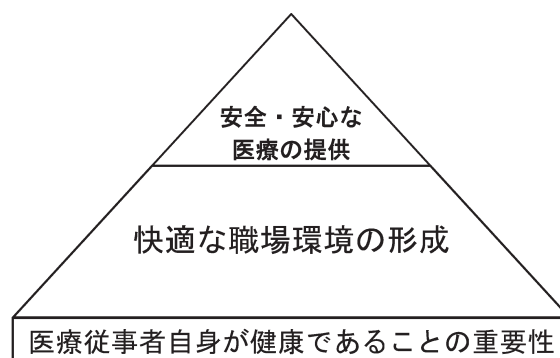


図8 医療と労働安全衛生

5. おわりに

全ての医療機関に求められるのは安全で安心な医療である（図8）。安全で安心な医療を提供するためには、快適な職場環境の形成が必要である。そのためには、医療従事者自身が健康であることが求められる。特に大学病院のように高度で先進的な医療サービスを提供することが世の中から求められている職場では、今回詳しく紹介することができなかったメンタルヘルス対策や過重労働問題など職場に潜在する様々な課題についても充分に対策を講じる必要がある。

社会構造の変化や働く環境の変化により最近ではサービス残業、時間外労働による過労死、ストレスの問題が頻繁にマスメディアで報じられ、大きな社会問題となっている。政府は経済政策の一環として、働き方の抜本的な改革を行い、企業文化や社会風土も含めて変えようと

する政策が推進されるようになって来ている。いわゆる「働き方改革」である。日本人が持つ勤勉さから己を捨てて一生懸命働くことが美德とされた時代から働くことそのものの意義が変わり、今後共、時代の変化に応じて新たな問題が生じてくることが充分予想される。これをきっかけとして、労働安全衛生について考えていただければ幸いである。